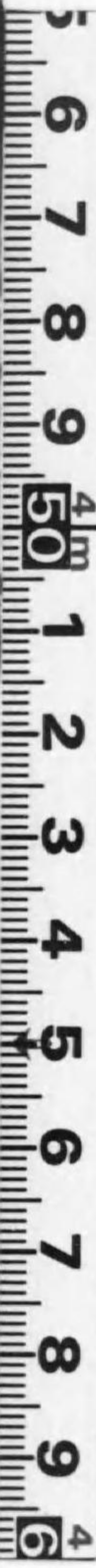


14. 5-559



559

資料
第十八輯
ナツフィールド卿の醫學研究に
對する美譽
三井報恩會編



始



14.
55

資料第十八號

ナツファイールド卿の
醫學研究に對する美舉

法財
人團
三
井
報
恩
會

はしがき

ナッフィールド卿が今回百二十五萬磅といふ大金を牛津大學へ寄附した。

何等の條件らしいものもなく只だ醫學上の研究者に其資を供給し、同時にそれらの篤學者の將來深い研究と發見に對する獎勵助成である。個人としての寄附金が今日までの中で最高のものであるとのことで社會の耳目を惹いてゐる。

卿の略歴を述べれば本名はウキリヤム・リチャード・モーリスといふ。一

八七七年十月生であるから本年五十九歳で、一九二九年男爵を授かつた。卿は初め醫學に志したのであるが、資力に乏しいので其方に進み得なかつたことである。彼は僅か五磅の資本を得て自轉車修繕業を初め、自動車製造工業から幾多の貿易會社に關係して今日の産をなした人である。卿は曰ふ「私



は金錢に微塵の執着もない。裸體で生れ出た所に裸で還る。それが幸福である。」と語つたとのことである。

(一九三六年「倫敦タイムス」から抜萃)

ナッフィールド卿

オックスフォード大學に

百二十五萬磅を寄附す

ナッフィールド卿は一九三六年十月オックスフォード大學に對し大學卒業者に更に高度の研究實驗等をなさしむべき大學院(Post-graduate Medical School)建設の爲に總額百二十五萬磅の寄附を申出たが、この寄附の申出は同大學理事會に於いて欣んで受容れるところとなつた。右寄附は國內大學に對する一個人の寄附として其金額に於いて嘗て見ざる最大のものであるといはれてゐる。

該寄附の申出はナッフィールド卿より同大學副總長宛の十月十日附書面によつてなされたものであるが、右書面を拔萃すれば次の通りである。

『科學としての醫學及びこれが實施に應用せられる醫術の進歩發達については夙に貴下の知らるゝ如く余の多年關心を持ち、又實際にこの方面に關係したところであつて、從來特に病院の發達については、格別緊密なる協力をなし來り、其の關係したる病院は一に止まらないし（註、卿は過去に於いてこの方面に對し寄附をしてゐる）又、醫學上の更に高く深い研究及び實地に於ける醫術上の諸問題について、それら専門の著名なる權威者と屢次意見をたゝかはす機會を有つたのであります。

余は、今後の醫科學の發展に對しては、研究の畑に従事する人々が、大學卒業後、更にある期間をいろゝの實地研究の爲に、近代的な諸設備並に方法のもとに訓練せられることが望ましいし、又藥劑の發達に伴ふ醫科學の進歩に對しても常に遅れぬやう密接なる接觸を保つことが望ましく、而かも、それらゝの研究を爲すにあたつても、單に自分自身だけの實驗に於いて行つ

たり、若しくは、學校で教そはつたまゝの方法のみでやることによつて、其の研究の完成が妨げらるゝことのないようにすることの望ましい時代にまで達して居ることを認めるのであります。

醫術の實際方面に於いては、最近凡ゆる保健を中心とする問題と、病氣に對する防護、豫防を中心とする治療の問題とがそれらゝの方面に、而かもそれは個々別々の存在ではなく社會（國家）全般の健康の増進並に良好なる健康状態の維持といふ目的に對して綜合統一せられ、組織的に論議せられ、注目せられる傾向が増大して居ることは余の喜ぶところでもあります。而かも、この理想の實現が、オックスフォードに於いて試みられんとしつゝあることは、余の特に欣快とするところであります。

大學都市の中に、凡ゆる科學的部門に於いて、病院と容易に連絡がとれ、又、健康問題に關する諸施設を兼ねたところの醫科大學院の出現は、一般

公共病院や私立病院に於いて實際に臨床に従事する醫師連の地位を向上せしむると共に、又、彼等に對して、より便宜を供與することに相違ないのであります。

サー・ファルカアー・バザードは去る七月二十一日の全英醫學協會總會に於いて、會長としての挨拶に於いて、余が豫ねて抱懐せるところの理想 (Ambitious Dream) を其の言辭に述べてゐる。即ち、それはオックスフォードに、前記のやうな大學を卒業した後に、更に進んで研究することの出来るやうな大學院を設置すること、そして科學としての醫學と、實際の醫術との間に目立つて存在する溝渠をば除去しやうといふことである。而かも、年來余が最も緊密なる協力をなしたつた病院もあり、又、余が名譽卒業生たるオックスフォード大學、そこには規模こそ小であるが、既に醫學研究所 (註、これも先年の寄附によつて設置されたもの) が存する。この大學の存在するオッ

クスフォードに於いて、余がかねど抱いてゐた理想の實現に援助するといふことは實に余の最も欣びとする處であります。

余が寄附申出の根據は、從來の大學附屬病院に於けるよりも、いろいろの研究に對して、より恵まれた便利なる状態を與へんとするものであつて、學校の擴充もさりながら、前記の余が理想を實現するために同大學内のナッフイルド醫學研究所を擴大充實するにあります。まづ、そこには、それだけ優秀なる男女の指導者を置いて、それらの項目に就いての研究を主管せしむると共に、これが研究の完成については、その配下に有給の臨床に於ける助手及び事務方面を擔當する事務員とを配する。これらの助手、竝に事務員は、いづれも研究所の方針に遵ひ、醫學上の諸問題につき科學的研究を爲すに適當したる人々の中から選出されることとする。而してこれらの職場は、一定の資格を有する開業醫、それはオックスフォード大學卒業者と、他大學

卒業者たるの區別なく、何人にも公開せらるべく、かくて進歩せる高度の醫術を期待する開業醫にとつては、明かに多大の便宜を供與するであらう。

尤も、余は卒業者に對する大學院とも云ふべきものが新設された場合、これに一定數の制限を附してオックスフォード大學生の臨床訓練として、これに参加せしめんとする希望をば排除するものではない。

一定の制限の下に、學生の臨床訓練参加はこれによつて、既に、ラドクリッフ病院によつて行はれてゐる學生の臨床訓練が、更に、より擴大されることゝならう。

余が、今回の援助の第一目的が、醫學上の智識の進歩發達にあるとはいへ、單にそれだけの目的に對して、今回の如き援助をする必要はないのであつて、余が、抱いて來た理想が、必然に、臨床上の調査研究及び病人の取扱が改善され且つ、より便宜となり、また、これに連絡して病院の施設も、より擴充

せらるゝといふことに於いて、余が満足せらるゝやうでなければ凡そ無意味であらう。この意味に於て、余はオックスフォード大學當局が、近在する各病院と早速緊密なる協力を確保することを信ずるものであつて、これなくしては、余が持する理想も計畫も満足に達成することは不可能であらう。』

卿は、更に、最も效果ありと思惟さるゝ右計畫に關する組織の大綱を叙し、總額に於いて百二十五萬磅の寄附をなすべき旨附記した。同大學理事會では、右寄附を有效ならしむべく、これが規則化を急いで居る。

去る十月二十二日附倫敦タイムズ週刊は

ナッフィールド卿のオックスフォード大學に對する今回の巨額の寄附に關し大要次の如く論じてゐる。

ナッフィールド卿が一個人として一大學に百二十五萬磅といふ未聞の巨額の寄附をなしたことは全く素張らしいセンセシヨナルなニュースである。

しかし、彼の今回の舉は決して偶然のものではなく、彼は既に八年前に於いてラドクリッフ病院を近代式の産室になほしたり、又、その後も、ラドクリッフ研究所の跡を買収して、時機を見て、そこへ病室を増築し、又、近代設備を有する醫學研究所を建設したりしてゐる。當時のこれらの寄附額は、今回に比すれば無論問題にならぬ。しかし彼の寄附についての意義あるところは、決して、其の金額の多きが故にあるのではなくして、彼が社會公共の利益の爲め、一つの目的に對してこれが達成への繼續的な根強き意思に存するものである。今回の彼の寄附の目的は、オックスフォード大學をして醫學研究の中心指導機關たらしめると共に、オックスフォード市に於ける病院等と協力して、同市をして醫學竝に醫術の一大中心たらしめるにある。同大學副總長の公式の演説に依れば、この寄附によつて同大學の研究所は擴大せらるべく、ラドクリッフ病室及び産科病室は、研究施設をかねたる近代設備のもの

となるべく、オックスフォード眼科病院及びウィングフィールド・モリス病院とを合せて七百の病室が新設せられるであらうとのことである。

因に、ナツフィールド卿は、該病院の補助資金として本年八萬磅の寄附をなし、昨年は又盲人のための發聲書籍發達のために五千磅を寄附し、本年更にこれに對して七ヶ年間に三萬五千磅を寄附することを公約して居る。(終)

昭和十二年二月二十三日印刷
昭和十二年一月二十九日發行

不許
複製

【非賣品】

東京市日本橋區室町二丁目一番地

財團

法人 三井報恩會

鈴木正美

東京市京橋區銀座四丁目四番地

株式會社

印刷所 細川活版所

東京市京橋區銀座四丁目四番地

印刷者 北川武之輔

14.5
559

終